24/9/18 「名古屋城バリアフリーに関する市民討論会」における差別事案に係る検証委員会

名古屋市民オンブズマンによるメモ

15:15

杉野副市長:はじめる

公開非公開

すべて公開

最終報告

田中検証委員長から報告

田中: 最終報告書 前回まで最終報告書案検討

本日完成

お手元には資料 中間報告書から加筆修正部分配布

今回の最終報告書 一つの文書

加筆した部分

適切な対応ができなかった背景、遠因等

- 1) 史実に忠実 解釈の不一致
- 2) 市としての方針 正確に理解 情報提供
- 3)職員の苦悩と葛藤
- 4) 公募選定後 無作為抽出 市民討論会開催進め方
- Ⅰ) 史実に忠実 解釈の不一致

市長、副市長、職員

市長 焼失前復元+防災上安全 副市長と職員 防災上安全+バリアフリー すり合わせができていなかった

2) 市としての方針 正確に理解 情報提供

令和3年11月 市長「より上層階設置」

公募終えた後 最優秀案 令和4年||月 |階又は2階まで

市職員 選定後もより上層階への設置

市民討論会アンケート 「垂直昇降機を設置しない」

市民の側 上層階まで設置? I 階又は2階まで?もう一度0から検討? 様々な理解が可能に

市民討論会 あらゆる意見を受け入れる

激しい意見対立 素地を作った

3) 職員の苦悩と葛藤

解釈が一致しなかった

新技術の公募 市議会で議決 予算つける 適切に評価 最優秀案 十分尊重されなければ

公募要件 より上層階までの設置が含まれる

どの階まで設置 十分な検討が行われてから

その中市長は「1階又は2階まで」公募要件とのずれ

事業進めていた職員 苦悩と葛藤

障害者団体 説明を市長の発言を受けてどのように維持していくのか 市民討論会で、適切に対応できなかった背景

4) 公募選定後 無作為抽出 市民討論会開催進め方 問題点があった

公募選定結果 予算をつけて進められた事業 市長は十分尊重しなければ 最優秀案が選定されたことが前提

「何階まで設置するか意見を聞く」べき

職員に苦悩、葛藤 いくつもの解釈が可能な情報発信

どういう目的で実施されたか不明確

その結果激しい意見対立 差別発言が生じる

- 第6 再発防止 数字の2番 市民からより一層信頼を得るための提言
 - 1) 名古屋市における差別解消推進条例改正
 - 2) 人権条例制定
- I)市を相手方 相談を受け付けることになっていなかった →市も対象に
- 2)人権条例 市から独立した機関が調査・提言する 小林委員から報告 浅田委員からも報告

小林: 最終報告書

最も重要 人権条例の制定

個別の運営 様々な条例

複合化 包括的な人権条例が必要

市職員、社会構造的な差別

実効性のある条例が必要

提案条例 社会構造的差別根絶

人権文化の確立 人権都市名古屋

市民からの信頼回復

人権相談+解決 調査、提言 独立機関

それなりに担う人材、予算が必要

名古屋市としても、条例だけではなく覚悟をもって

条例作っても変わらない、たらいまわしされて解決いたらない →かえって信頼を失う 最前線 職員の能力が必要 研修、委託 費用などが必要 きちんと提言を踏まえて考えて

浅田:田中委員長、小林委員 教育の立場、市民の立場

市の主催 いきどおり市民を受け止め、

二度と起こってはいけない

市が差別発言を生み出しやすい場を作った

名古屋城にかかわる市民への情報発信が、市長会見、名古屋城担当者情報 必ずしも一致していなかった

市民としてわかりにくかった

今後組織が行う正確な情報発信 十分なコミュニケーションが必要 人権文化の向上を

田中:ありがとう

昨年8月30日 おおむね | 年要した 少し時間がかかりすぎたという意見 様々な意見 ヒアリング多数 最終報告書 わかりやすい、納得するもの努力した お読みいただいて、ご理解いただければ 最終報告書 市長、市の体制として着実に実行して 本当に違いを認め合う、多様性のある名古屋市 一歩一歩作って 市全体として進んでほしい これで最終報告書として決定したい

杉野:ありがとう

最終報告決定していいか ありがとう 決定 河村市長に提出したい 熱心に議論 感謝申し上げる

I 年以上

会長を務めたが、遠因のところ 検証委員会 実際にかかわった関係者 人権意識の希薄

おわりに メッセージが凝縮されている 市長 行政機関の長 市民分断させないよう 当事者真摯に意見を聞く
人権侵害しないように
名古屋市の事業で生じた
しっかりと受け止めたい
ありがとう
I 年以上にわたって検証 最終報告 報告で終わりではなく、
十分に踏まえて
本日の会議は以上

15:39

3階の市長室で贈呈式